

知的障がい教育部門 高等部 保健体育科学習指導案

日 時 令 和 7 年 10 月 17 日 (金)

対 象 高 等 部 第 3 学 年 16 名

場 所 県立延岡しろやま支援学校 体育館

指導者 上野 航 (T1) 、臼木 真子 (T2)

都甲 浩之 (T3)

1 単元名 球技 ネット型「バドミントン」

2 単元の目標

(1) バドミントンの楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能の理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付け、ゲームを行うことができるようにする。 (知識及び技能)

(2) バドミントンについての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えることができるようする。 (思考力、判断力、表現力等)

(3) バドミントンの多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守ったり、自己の役割を果たし仲間と協力したりしながら、見通しをもって自主的に運動をすることができるようする。 (学びに向かう力、人間性等)

3 運動の一般的特性

本単元は、「特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（下）（高等部）保健体育 E 球技」を取り上げている。球技は、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動であり、ゴール型、ネット型、ベースボール型で構成される。

ネット型は、コート上でネットをはさんで相対し、身体や用具を操作してボール（シャトル）を空いている場所に返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うことに楽しさや喜びを味わうことのできる特性がある。球技の学習指導では、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的なボール（シャトル）や用具等の操作と仲間と連携した動きで攻防を展開できるようにすることが求められる。そのため、攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、考えたことを他者に伝えることができるようになることが大切である。

4 生徒の実態

(1) 学習グループの実態

本グループは高等部3年生16名（そのうち、本校バドミントン部3名所属）で構成されている。知的障がいの特性として、空間認知能力に困難性が見られる。そのため、シャトルの落下点に入ることに課題を抱える生徒が多く、返球したりラリーを続けたりする困難さがあり、本来のバドミントンのルールで活動することは難しい。また、これまで運動経験が少なく、適切な身体の動かし方に課題を抱える生徒も多く、自己の課題発見に関しては、動作の模倣を示したり課題発見のためのポイントや練習方法の選択肢を写真や動画を付け加えながら示したり等の支援が必要である。

一方で、保健体育の学習を通して、用具の準備や片付けを友達と協力したり、活動の際にお互いを応援し合ったりする生徒が多く、生徒主体で学習活動を展開していくこともある。

さらに、卒業後の実生活、実社会において体力が必要であることは分かっているが、運動をする機会が学校だけという生徒がほとんどである。そのため、保健体育の学習を通して、身体を動かす楽しさやスポーツに多様な形で関わることにより、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することができるようしていくことが大切である。

(2) 運動に触れる楽しさの体験状況

生徒の運動の体験状況について、授業では、週に1回の20分間走に取り組んでおり、体力向上に努めている。その中で、自分で周回の目標を立て、目標達成に向けて歩くことなく時間いっぱい走り続ける姿が見られてきた。また、体力テストでは、昨年度の記録を上回ることを目標にしたり、友達と計測し合ったりと対話的な学習をする姿も見られた。さらに、学習で使用する用具の準備や片付けでは、友達と協力して行うこともできている。

陸上競技部（3名）やバドミントン部（3名）、サッカー同好会（3名）に所属している生徒は、練習や大会に参加し、自己ベストを更新するなど、運動に親しんでいる。また、チャレンジスポーツやパラスポーツフェスティバルに毎回参加する生徒もいるが、家から外出することなく、スマートフォンでオンラインゲームをしたり、動画を視聴したりして家から出て運動をすることがほとんどない生徒もいる。

授業では、決まった生徒が中心になって活動中の話し合いを進行したり、活動内容に積極的に取り組んだりすることが多い。そのため、自分の取り組みみたい活動を自己選択、自己決定する生徒が少ない。

これまでの学習を通して、バドミントンの単元に関する事前アンケートでは、「バドミントンは楽しいと思いますか?」という問い合わせに対して「楽しい」と答えた生徒が81.3%と、バドミントンへの関心が高く、運動に対して意欲的な生徒が多い。また、「オリンピックのバドミントン競技を見たことがありますか?」の問い合わせに対して「はい」と答えた生徒が62.5%と、「する」だけでなく「見る」というスポーツの関わり方を楽しんでいる生徒も多い。

一方で、「体育の授業で友達にアドバイスをしたことがありますか?」の問い合わせに対して「はい」と答えた生徒が18.8%と、他者との関わりをもつ生徒が少ない。

(3) 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の習得状況

「知識及び技能」に関しては、バドミントンの基礎的な技術や名称、ルールについての学習に昨年度も取り組んでいるが、シャトルの落下点に入ることができなかったり、シャトルを打ち返すことができなかったりなど、基本的な技能については個人差が大きい。そのため、サーブを入れるが、返球することができずサーブのみでゲームが終了してしまうこともある。

「思考力、判断力、表現力等」に関しては、グループ活動を積極的に取り入れ、直接的に自分の考えを仲間に伝えたり、教材教具を交わして指示を出したりする活動に保健体育の授業では取り組んでいる。特に、話し合い活動では回数を重ねていくことで、少しずつ自分の考えを仲間に伝えたり、個別に簡単な質問をしたりすることで、言葉や領き等で表現する姿が見られるようになってきた生徒もいる。しかし、決まった生徒を中心に話し合い活動が進むことが多いため、自己の課題に気付くには、教師の支援が必要である。また、課題の解決の方法を思考することなく、技能段階が設けられた活動の段階の向上を目指すことなく、現状維持し続ける生徒もいる。

「学びに向かう力、人間性等」に関しては、体育大会や体つくり運動などの活動を通して、用具の準備や片付けを互いに協力し合って取り組む生徒や、活動中に仲間を応援し合う生徒が増え、保健体育の授業を楽し

む生徒が増えてきた。

5 学習を進めるに当たって

本単元では、本校独自の『思考力、判断力、表現力等について実現状況を判断する目安』や『学習内容系統表』などを参考に、指導と評価の一体化を図りながら授業を進めていきたい。また、バドミントンに関する技能を段階的にまとめたタブレット端末のアプリを活用して、生徒自身が自分に合った課題を選択したり、模倣動画を提示したりすることで視覚的に理解しながら、思考力、判断力、表現力等を養う授業を展開していきたい。

単元を構成するに当たっては、生徒の実態を踏まえ、バドミントンの基本的な技能を高める活動やバドミントンのルールを簡易化したゲームを中心に行い、生徒全員が自己の役割を果たすことができる場面を設定し、運動やスポーツに対して自己の適正に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方のきっかけをつくりたい。

単元はじめのオリエンテーションでは、バドミントンの歴史やオリンピック、パラリンピックの正式種目であり、日本人選手が活躍していることを伝える。また、バドミントン部に所属している友達と一緒にバドミントンの活動ができる環境の良さや卒業後の余暇活動の一つとして取り組みやすい運動（スポーツ）であることに気付かせたい。

単元の前半では、基本的な技能を高めることができるように、4つの技能段階が設けられた「シグナルステップ（補足資料1）」や5つの技能段階が設けられた「シャトルキャッチ（補足資料2）」を行う。「シグナルステップ」は、バドミントンに必要な動作であるステップ系の技能を高めることができるように、自己の技能段階にあった活動内容を思考し、自己選択できるようにタブレット端末を活用する。また、直接的にコミュニケーションを取ることに困難のある生徒も一緒に活動に取り組むことができるように、マーカーやコーン等の教材教具を介して、間接的に生徒同士の対話的な活動になるように取り組ませたい。「シャトルキャッチ」は、落下点に入る技能を高めることができるように「シグナルステップ」と同様、自己の技能段階にあった活動内容を思考し、自己選択できるようにタブレット端末を活用する。また、空間認知能力に困難性が見られる生徒でも一緒に活動に取り組むことができるように、教材教具を工夫していきたい。

単元の中盤から後半にかけては、バドミントンのルールを簡易化したゲーム「しろやまカップ」に向けて、4つの活動を行う。「①得点ゲーム」では、サーブで相手コートへ打ち入れることや空いた場所を狙うこと等、基本的な技能の習得を目指したい。「②風船ラリーゲーム」では、落下点に入ることが苦手な生徒が、時間に余裕をもって落下点に入り、返球し、ラリーを続ける楽しさを味わうことができるようにしたい。「③シャトルラリーゲーム」では、技能向上を目指しながらラリーを続ける楽しさを味わうことができるようにしたい。「④シングルス」では、アドピティッドシートを用いて、誰もが楽しく活動できるような工夫を行っていきたい。「しろやまカップ（9 学習指導過程参照）」では、生徒が主体的に活動することができるように、教材教具、ルールなどを工夫したり、思考力・判断力・表現力等を育むために、話し合い活動や活動形態を工夫したりする。

本時において、はじめの段階では、チーム毎にコートの設営を行い、終了したチームから準備運動や補強運動を行う。補強運動では、タブレット端末のアプリを使ってチーム毎に決めた内容（肩甲骨、股関節、フットワーク）を行い、バドミントンに必要な柔軟性や俊敏性の向上につなげることができるようにしていきたい。

なかの段階では、「しろやまカップ（1日目）」を行う。チーム毎に作戦会議や練習を行う時間を

設定し、生徒主体の活動となるようにしていきたい。「しろやまカップ」の4つの活動では、生徒それぞれが自己的課題や能力に合わせて活動を思考・判断し、自己選択したり、自分の考えを仲間に表現したりする場面を設定し、生徒全員が意欲的に活動に取り組むことができるようにしていきたい。

まとめでは、本時の目標を振り返ったり、次時のゲームに向けてチーム内で課題を共有する時間を設けたりする。このように対話的な活動を通して、仲間と協力しながら活動に取り組んだり、考えを尊重しあったりする態度を育てることができるようにしていきたい。

カリキュラム・マネジメントの視点から、事前に保健領域（自立活動）における心身の発育・発達、傷害の防止及び疾病の予防やストレスへの対処法等の学習との関連を図ることにより、生徒に運動の大切さを実感させるとともに、「ネット型ゲーム」を学習する意義をより一層理解させ、スムーズな導入につながるようにしたい。

単元途中や単元後も、他教科との関連を図りながら学習を進めることで、教科等横断的な学びが実現するよう指導を進めていきたい。

6 単元の評価規準

○ 単元の評価規準（単元の評価規準：特別支援学校学習指導要領より）

内容のまとまりごとの評価規準	段階	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	一段階	○ 球技の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能を理解するとともに技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うことができる。	○ 球技についての自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを他者に伝えることができる。	○ 球技の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自主的に運動をすることできる。
単元の評価規準	二段階	○ 球技の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能の理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付け、ゲームを行うことができる。	○ 球技についての自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。	○ 球技の多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、自己の役割を果たし仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、見通しをもって自主的に運動することができる。
	一段階	① バドミントンの基本的技能のポイントについて理解することができる。 ② シャトルの落下点に素早く移動することができる。 ③ 自陣コートからサーブやラリー等で相手コートにシャトルを打つことができる。	① 自他の課題を選択肢から発見している。 ② 自他の課題を解決するための方法を選択肢から選んだり、仲間と考えたりしている。 ③ 自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えている。	① バドミントンの学習に積極的に取り組もうとしている。 ② きまりやルールを守り、仲間と協力して活動に取り組もうとしている。
二段階	二段階	① バドミントンの基本的技能のポイントについて理解し、実践することができる。 ② シャトルの落下点に素早く移動し、打球に応じた準備姿勢をとることができる。 ③ 相手コートの空いた場所にシャトルを打ち返すことができる。	① 自他の課題を選択肢から発見している。 ② 自他の課題のよりよい解決のための方法を仲間や教師と一緒に思考・判断し、実践している。 ③ 自他の課題のよりよい解決のために思考し判断したことを、目的や状況に応じて教師と一緒に他者に伝えている。	① バドミントンの学習に見通しをもって積極的に取り組もうとしている。 ② きまりやルールを守り、自己の役割を果たしたり、仲間と協力したりしながら活動に取り組もうとしている。

※（知識・技能：「学習内容系統表 知識及び技能編（実現状況を判断する目安）」を参考）

（思考・判断・表現：「思考力、判断力、表現力等について実現状況を判断する目安」を参考）

7 単元の学習計画及び評価計画

時間		1	2	3	4	5	6
指導内容	知		①基本的技能	③サーブやラリー	②落下点	①基本的技能	②落下点
	思		①課題の発見	②課題解決の選択	①課題の発見		
	学	①積極的取り組み				②きまりやルール	②きまりやルール
学習の流れ	0	1 オリエンテーション ・歴史 ・ルールや特性 ・授業のながれ	1 コートづくり	1 コートづくり	1 コートづくり	1 コートづくり	1 コートづくり
	10	2 準備運動、補強運動	2 準備運動、補強運動	2 準備運動、補強運動	2 準備運動、補強運動	2 準備運動、補強運動	2 準備運動、補強運動
	20	3 チーム発表 ・チーム名	3 基本的技能 ○シグナルステップ	3 基本的技能 ○シグナルステップ ○シャトルキャッチ	3 基本的技能 ○シグナルステップ ○シャトルキャッチ	3 基本的技能 ○シグナルステップ ○シャトルキャッチ	3 基本的技能 ○シグナルステップ ○シャトルキャッチ
	30	4 基本的技能 ○シグナルステップ ・レベル1～4の確認	4 基本的技能 ○シャトルキャッチ ・レベル1～5の確認	4 サーブ ・ショートサーブ ・ロングサーブ ・ポイントの確認	4 得点ゲーム ・ルールの確認 ・チーム練習	4 風船ラリーゲーム ・ルールの確認 ・チーム練習	4 風船ラリーゲーム ・ルールの確認 ・チーム練習
	40	5 片付け	5 片付け	5 片付け	5 片付け	5 片付け	5 片付け
	50	6 まとめ ・学習カード	6 まとめ ・学習カード	6 まとめ ・学習カード	6 まとめ ・学習カード	6 まとめ ・学習カード	6 まとめ ・学習カード
評価	知	観察	学習カード	学習カード、観察	観察	観察	観察
	思	学習カード	学習カード	学習カード			
	主	観察、学習カード			学習カード	学習カード	学習カード
準備物		・タブレット端末 ・テレビ	・タブレット端末 ・学習カード ・シャトル ・風船	・ホワイトボード ・マーカー ・ラケット ・得点版	・ミニコーン ・タイマー ・フラフープ ・ネット ・支柱		
保健分野			「けがや疾病の予防」	「ストレスへの対処」	「傷害の防止及び疾病の予防」		
体育理論		「スポーツの意義」	「運動やスポーツの多様性」	「安全な行い方」			
カリ・マネ		「人間関係の形成」	「コミュニケーション」	（自立活動）			

時間		13（本時）	14	15
指導内容	知			
	思	③他者に伝える	③他者に伝える	③他者に伝える
	学	②きまりやルール	②きまりやルール	②きまりやルール
学習の流れ	0	1 コートづくり 2 準備運動、補強運動	1 コートづくり 2 準備運動、補強運動	1 コートづくり 2 準備運動、補強運動
	10			
	20	3 しろやまカップ1日目 ・ルールの確認 ・チーム練習 ・実践形式	3 しろやまカップ2日目 ・前時の結果 ・チーム練習 ・実践形式	3 しろやまカップ3日目 ・前時の結果 ・チーム練習 ・実践形式
	30			
	40		4 表彰	
	50	4 片付け 5まとめ ・学習カード	4 片付け 5まとめ ・学習カード	5 片づけ 6 単元まとめ ・アンケート
評価	知	観察	観察	観察
	思	学習カード、観察	学習カード、観察	学習カード、観察
	主	観察	観察	観察
準備物		・タブレット端末 ・学習カード ・ホワイトボード ・マーカー ・支柱 ・ミニコーン ・タイマー ・フラフープ ・ネット ・シャトル ・風船 ・ラケット ・得点版 ・得点カード ・模造紙		
保健分野		「けがや疾病の予防」「ストレスへの対処」「傷害の防止及び疾病の予防」		
体育理論		「運動やスポーツの多様性」		
カリ・マネ		「人間関係の形成」「身体の動き」「コミュニケーション」（自立活動）		

8 本時の学習（13/15）

（1） 本時の目標

I 段階・・・ 自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えることができるようとする。

II 段階・・・ 自他の課題のよりよい解決のために思考し判断したことを、目的や状況に応じて教師と一緒に他者に伝えることができるようとする。

（思考力、判断力、表現力等）

I 段階・・・ きまりやルールを守り、仲間と協力して活動に取り組むことができるようとする。

II 段階・・・ きまりやルールを守り、自己の役割を果たしたり、仲間と協力したりしながら活動に取り組むことできるようとする。

（学びに向かう力、人間性等）

（2） 本時の評価項目

I 段階・・・ 自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えている。

II 段階・・・ 自他の課題のよりよい解決のために思考し判断したことを、目的や状況に応じて教師と一緒に他者に伝えている。

（思考・判断・表現）

I 段階・・・ きまりやルールを守り、仲間と協力して活動に取り組もうとしている。

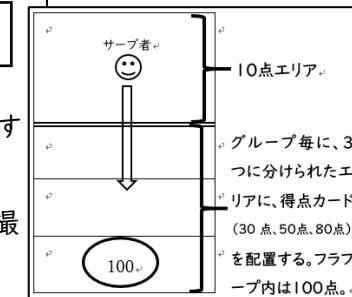
II 段階・・・ きまりやルールを守り、自己の役割を果たしたり、仲間と協力したりしながら活動に取り組もうとしている。

（主体的に学習に取り組む態度）

9 学習指導過程

時間	学習内容及び学習活動	チーム別学習活動及び指導上の留意点				資料・準備
		A	B	C	D	
5分	1 授業の準備	チーム毎に集合し、用具の準備やコートを設営する。 ・リーダーを中心に、チーム毎に用具の準備やコート設営をするように言葉掛けをする。(T1) ・安全にコート設営することができるよう、適宜言葉掛けや補助をする。(T1～T3) ・コート設営が終了したチームから準備運動や補強運動をすることができるよう、言葉掛けをする。(T1～T3)				・支柱 ・ネット ・得点板
7分	2 準備運動	リーダーを中心に出欠確認、健康観察、準備運動をする。 ・リーダーが役割を意識することができるよう、言葉掛けをする。(T1) ・怪我防止のための準備運動ができるよう、適宜言葉掛けをする。(T1～T3) チームで話し合って決めた補強運動に取り組む。				・タブレット 端末
1分	3 整列、挨拶	適切な体の使い方を意識することができるよう、言葉掛けをする。 ・難しい運動の場合は、動画を再確認させたり、運動の補助をしたりする。(T1～T3) チーム毎に整列をすることができるよう、リーダーに言葉掛けをする。(T1) 当番の号令に合わせて姿勢を正し、全員で授業の始まりの挨拶をする。 ・語先後礼を意識することができるよう、必要に応じて言葉掛けをする。(T1) 教師の話を聞いて、前時を想起する。				

3分	<p>4 本時の学習内容と目標</p> <p>本時の流れ</p> <p>(1) コート設営</p> <p>(2) 準備運動、補強運動</p> <p>(3) しろやまカップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・得点ゲーム ・風船ラリーゲーム ・シャトルラリーゲーム ・シングルス <p>(4) 片付け</p> <p>(5) 振り返り</p>	<p>本時の学習内容と目標を確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードに提示した学習の流れと、本時の目標を見ながら確認する。(T1) ・ホワイトボードを注視するようができるように、必要に応じて言葉掛けをする。(T2、T3) <p>本時の目標:仲間と話し合い、自分の役割を果たそう(Day1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標を理解することができるよう、生徒が理解しやすい言葉を提示する。(T1) ・ホワイトボードを注視するようができるよう、必要に応じて言葉掛けをする。(T2、T3) ・目標を意識しながら活動に取り組むことができるよう、必要に応じて目標を読み上げる。(T2、T3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード
25分	<p>5 しろやまカップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・得点ゲーム(4分) ・風船ラリーゲーム(3分) ・シャトルラリーゲーム(3分) ・シングルス(15分) 	<p>しろやまカップのルールを再確認し、学習への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを再確認することができるよう、模造紙を提示する。(T1) ・ホワイトボードを注視するようができるよう、必要に応じて言葉掛けをする。(T2、T3) <p>チーム毎に作戦会議およびしろやまカップに向けた練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話的な活動になるよう、自己や仲間の課題を話し合う場面を設定する。(T1) ・自分の考えを言葉や指さなどで仲間に伝えることができるよう、言葉掛けをする。(T1～T3) <p>しろやまカップ「得点ゲーム」をチーム毎にする(1人1回)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に活動に取り組むことができるよう、得点エリアをチーム毎に工夫する。 ・見学者が主体的に参加することができるよう、記録やタブレットで活動を撮影する役割を与える。(T1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・模造紙 ・ホワイトボード ・タブレット端末 ・チーム用ホワイトボード ・得点カード ・フラフープ ・マーカー ・記録用紙 ・タブレット端末



		<p>しろやまカップ「風船ラリーゲーム」をチーム毎にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各チーム2名参加するように言葉掛けをする。(T1) 余裕をもって落下点に入ったり、ラリーを続けたりすることができるよう、風船を使用する。 <p>しろやまカップ「シャトルラリーゲーム」をチーム毎にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各チーム2名参加するように言葉掛けをする。(T1) 風船ラリーよりもステップアップできるよう、シャトルを使用する。 <p>しろやまカップ「シングルス」をチーム対抗する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各チーム1名参加するように言葉掛けをする。(T1) 見通しをもって活動に取り組むことができるよう、前時までと同じルールで行うことを確認する。(T1) 試合を待っている生徒や見学者が主体的に参加することができるよう、審判や応援、記録、タブレットで活動の様子を撮影する役割を与える。(T1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・風船 ・ラケット ・シャトル ・ラケット ・アダプテッドシート ・シャトル ・風船 ・ラケット各種 ・タブレット ・タブレット端末 ・記録用紙 ・タブレット ・タブレット端末 ・テレビモニター
3分	6 片付け	<p>チーム毎にコートや用具の片付けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全にコートや用具を片付けることができるよう、適宜言葉掛けや必要に応じて補助をする。(T1～T3) 	
5分	7 振り返り	<p>本時の学習について振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を振り返ることができるよう、タブレットを用いて自己評価を行うようする。(T1) 本時の内容を思い出しながら振り返りをすることができるよう、必要に応じて言葉掛けをしたり、タブレットを用いて本時の活動の動画を提示したりする。(T2、T3) 	
1分	8 整列、挨拶	<p>当番の号令に合わせて姿勢を正し、全員で授業の終わりの挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 語先後礼を意識することができるよう、必要に応じて言葉掛けをする。(T1) 	

10 本単元に関する生徒の実態及び本時の目標

[評価基準] ◎…よくできた ○…できた △…もう少し

	氏名	単元に関する生徒の実態	本時の目標	評価項目	評価
A グループ	A (男)	バドミントンの授業に意欲的に取り組むことができる。 シャトルをラケットで打ち返し、ラリーを続けることができる。 教師の言葉掛けて、自分の考えを他者に伝えることができる。 用具を安全に扱うことができる。	自他の課題のよりよい解決のために思考し判断したことを、目的や状況に応じて教師と一緒に他者に伝えていく。(思・判・表Ⅱ③)	自他の課題のよりよい解決のために思考し判断したことを、目的や状況に応じて教師と一緒に他者に伝えることができたか。	
			きまりやルールを守り、自己の役割を果たしたり、仲間と協力したりしながら活動に取り組もうとしている。(主体的Ⅱ②)	きまりやルールを守り、自己の役割を果たしたり、仲間と協力したりしながら活動に取り組むことができたか。	
	B (男)	バドミントンの授業に意欲的に取り組むことができる。 シャトルをラケットで打ち返し、ラリーを続けることができる。 自分の考えを他者に伝えることができる。 用具を安全に扱うことができる。	自他の課題のよりよい解決のために思考し判断したことを、目的や状況に応じて教師と一緒に他者に伝えていく。(思・判・表Ⅱ③)	自他の課題のよりよい解決のために思考し判断したことを、目的や状況に応じて教師と一緒に他者に伝えることができたか。	
			きまりやルールを守り、自己の役割を果たしたり、仲間と協力したりしながら活動に取り組もうとしている。(主体的Ⅱ②)	きまりやルールを守り、自己の役割を果たしたり、仲間と協力したりしながら活動に取り組むことができたか。	
C (男)	C (男)	バドミントンの授業に意欲的に取り組むことができる。 シャトルをラケットで打ち返すことに困難さが見られる。 教師の言葉掛けて、自分の考えを他者に伝えることができる。 用具を安全に扱うことができる。	自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えている。(思・判・表Ⅰ③)	自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えることができたか。	
			きまりやルールを守り、仲間と協力して活動に取り組もうとしている。(主体的Ⅰ②)	きまりやルールを守り、仲間と協力して活動に取り組むことができたか。	
D (女)	D (女)	バドミントンの授業に苦手意識はあるが、取り組もうとすることができる。 シャトルをラケットで	自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えている。(思・判・表Ⅰ③)	自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えることができたか。	

		<p>打ち返すことに困難さが見られる。</p> <p>教師の言葉掛けで、自分の考えを他者に伝えることができる。</p> <p>用具を安全に扱うことができる。</p>	<p>きまりやルールを守り、仲間と協力して活動に取り組もうとしている。(主体的 I ②)</p>	<p>きまりやルールを守り、仲間と協力して活動に取り組むことができたか。</p>	
B グループ	E (女)	<p>バドミントンの授業に意欲的に取り組むことができる。</p> <p>シャトルをラケットで打ち返し、ラリーを続けることができる。</p> <p>教師の言葉掛けで、自分の考えを他者に伝えることができる。</p> <p>用具を安全に扱うことができる。</p>	<p>自他の課題のよりよい解決のために思考し判断したことを、目的や状況に応じて教師と一緒に他者に伝えている。(思・判・表 II ③)</p>	<p>自他の課題のよりよい解決のために思考し判断したことを、目的や状況に応じて教師と一緒に他者に伝えることができたか。</p>	
	F (男)	<p>バドミントンの授業に苦手意識はあるが、取り組もうとすることができる。</p> <p>シャトルをラケットで打ち返すことができる。</p> <p>教師の言葉掛けで、自分の考えを他者に伝えることができる。</p> <p>用具を安全に扱うことができる。</p>	<p>自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えている。(思・判・表 I ③)</p>	<p>自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えることができたか。</p>	
	G (男)	<p>バドミントンの授業に苦手意識はあるが、取り組もうとすることができる。</p> <p>シャトルをラケットで打ち返すことに困難さが見られる。</p> <p>教師の言葉掛けで、自分の考えを他者に伝えることができる。</p> <p>用具を安全に扱うことができる。</p>	<p>自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えている。(思・判・表 I ③)</p>	<p>自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えることができたか。</p>	
	H (女)	<p>バドミントンの授業に苦手意識はあるが、取り組もうとすることができる。</p> <p>シャトルをラケットで</p>	<p>自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えている。(思・判・表 I ③)</p>	<p>自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えることができたか。</p>	

		<p>打ち返すことができる。 教師の言葉掛けて、自分の考えを他者に伝えることができる。 用具を安全に扱うことができる。</p>	<p>きまりやルールを守り、仲間と協力して活動に取り組もうとしている。(主体的 I ②)</p>	<p>きまりやルールを守り、仲間と協力して活動に取り組むことができたか。</p>	
C グル ープ	I (男)	<p>バドミントンの授業に意欲的に取り組むことができる。 シャトルをラケットで打ち返し、ラリーを続けることができる。 教師の言葉掛けて、自分の考えを他者に伝えることができる。 用具を安全に扱うことができる。</p>	<p>自他の課題のよりよい解決のために思考し判断したことを、目的や状況に応じて教師と一緒に他者に伝えている。(思・判・表 II ③)</p>	<p>自他の課題のよりよい解決のために思考し判断したことを、目的や状況に応じて教師と一緒に他者に伝えることができたか。</p>	
	J (男)	<p>バドミントンの授業に意欲的に取り組むことができる。 シャトルをラケットで打ち返すことに困難さが見られる。 自分の考えを他者に伝えることはできるが、要求が通らないと情緒が不安定になる。 右半身に麻痺がある。</p>	<p>自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えている。(思・判・表 I ③)</p>	<p>自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えることができたか。</p>	
	K (男)	<p>バドミントンの授業に意欲的に取り組むことができる。 シャトルをラケットで打ち返し、ラリーを続けることができる。 教師の言葉掛けて、自分の考えを他者に伝えることができる。 用具を安全に扱うことができる。</p>	<p>自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えている。(思・判・表 I ③)</p>	<p>自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えることができたか。</p>	
	L (男)	<p>バドミントンの授業に苦手意識はあるが、取り組もうとすることができる。 シャトルをラケットで</p>	<p>自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えている。(思・判・表 I ③)</p>	<p>自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えることができたか。</p>	

		<p>打ち返すことができる。 教師の言葉掛けて、自分の考えを他者に伝えることができる。 用具を安全に扱うことができる。</p>	<p>きまりやルールを守り、自己の役割を果たしたり、仲間と協力したりしながら活動に取り組もうとしている。 (主体的Ⅱ②)</p>	<p>きまりやルールを守り、自己の役割を果たしたり、仲間と協力したりしながら活動に取り組むことができたか。</p>	
D グ ル ー プ	M (男)	<p>バドミントンの授業に意欲的に取り組むことができる。 シャトルをラケットで打ち返し、ラリーを続けることができる。 自分の考えを他者に伝えることができるが、要求が通らないと情緒が不安定になることがある。 用具を安全に扱うことができる。</p>	<p>自他の課題のよりよい解決のために思考し判断したことを、目的や状況に応じて教師と一緒に他者に伝えていく。 (思・判・表Ⅱ③)</p>	<p>自他の課題のよりよい解決のために思考し判断したことを、目的や状況に応じて教師と一緒に他者に伝えることができたか。</p>	
	N (男)	<p>バドミントンの授業に意欲的に取り組むことができる。 シャトルをラケットで打ち返し、ある程度ラリーを続けることができる。 教師の言葉掛けて、自分の考えを他者に伝えることができる。 用具を安全に扱うことができる。</p>	<p>自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えている。 (思・判・表Ⅰ③)</p>	<p>自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えることができたか。</p>	
	O (男)	<p>バドミントンの授業に苦手意識がある。 シャトルをラケットで打ち返すことに困難さが見られる。 自分の考えを他者に伝えることに困難さが見られる。 用具を安全に扱うことができる。 学校に登校する日数が少なく、保健体育の学習に参加することはほとんどない。</p>	<p>自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えている。 (思・判・表Ⅰ③)</p>	<p>自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えることができたか。</p>	
			<p>きまりやルールを守り、仲間と協力して活動に取り組もうとしている。 (主体的Ⅰ②)</p>	<p>きまりやルールを守り、仲間と協力して活動に取り組むことができたか。</p>	

	P (女)	<p>バドミントンの授業に意欲的に取り組むことができる。</p> <p>シャトルをラケットで打ち返すことに困難さが見られる。</p> <p>教師の言葉掛けで、自分の考えを他者に伝えることができる。</p> <p>用具を安全に扱うことができる。</p>	<p>自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えている。(思・判・表 I ③)</p>	<p>自他の課題を解決するための方法について教師と一緒に他者に伝えることができたか。</p>	
			<p>きまりやルールを守り、仲間と協力して活動に取り組もうとしている。(主体的 I ②)</p>	<p>きまりやルールを守り、仲間と協力して活動に取り組むことができたか。</p>	